

《日野自動車グリーンファンド学校の森づくり》

* 本稿は、2017年11月11日、平成29年度日野自動車グリーンファンド助成金贈呈式・活動発表会（於、日野自動車21世紀センター）における発表内容を一部編集して収録したものです。

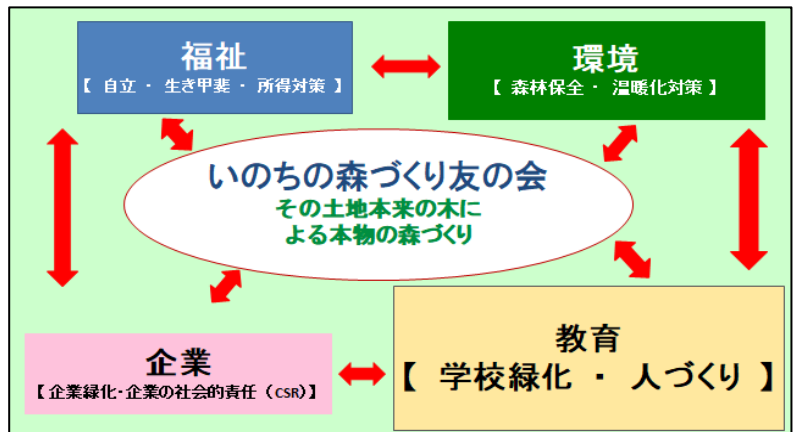
いのちの森づくり友の会
社会福祉法人 進和学園 & 株式会社 研 進

日野自動車グリーンファンド助成を活用して実施させて頂いた「学校の森づくり」について発表させて頂きます。

最初に、私達の「いのちの森づくり友の会」の活動について説明致します。
横浜国大名誉教授の宮脇昭先生が提唱される「その土地本来の木による本物の森（自然の森）づくり」を行っています。

障害のある方達が「森づくり」を通じて自立を促す「福祉」、地球温暖化により深刻化する「環境」問題への対応、「森づくり」が「人づくり」に繋がるとの観点から「教育」との連携、そして、「企業」のCSR活動との連携も深め、付加価値の高い取り組みを目指しています。

植樹及び植樹地のメンテナンスを実施し、主に「公共スペース」の緑化を進めています。
12年目を迎え、今までに約23万本の苗木を提供し「森づくり」の輪を拡げていますが、最近、特に力を入れているのが「教育」との連携を目指す「学校の森づくり」です。



活動の主役は、福祉施設で働く障害者で、特に、知的・精神障害のある方々による「森づくり」チーム「どんぐりブラザーズ」を組織しています。

現在、平塚市の社会福祉法人進和学園が中心となり10施設が参加しています。

どんぐりや木の実から苗木を栽培し、植樹を行っています。更に、植樹地の「草むしり／除草」等の作業にも従事しています。



主な仕事として、「どんぐり」拾いや木の実採集、ポット苗づくり、水やり等と日々苗木の世話を行っており、植樹に適した40～50cmほどの苗木に育てています。

現在、高中低木合わせ約80種類、8万本の苗木を栽培しています。

関係の皆様と協力して、各地の植樹祭や防潮林、道路側道、公園、学校等に植えています。



これは2006年4月、私達の福祉工場「しんわろネッサンス」(平塚市)の植樹祭の様子です。

地域の皆様、子供からお年寄りまで400人以上が参加し、52種類、約4,900本の苗木を植樹しました。



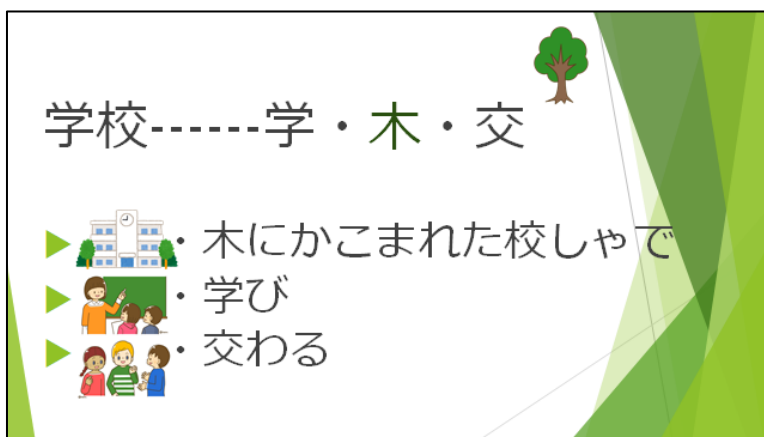
10年が経過し、小さな苗木は9mにも生長しました。立派な自然の森が福祉工場で働く私達を見守ってくれています。



それでは、「学校の森づくり」について説明させていただきます。

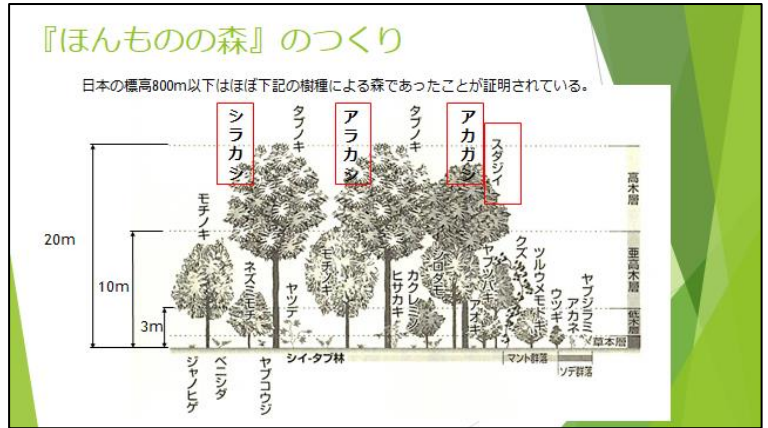
こちらは、生徒さん達にお話する時の資料ですが、生徒さん達には植樹活動を通して木を植えることが、「いのち」を守ることに繋がる、「人づくり」に繋がるということを伝えています。

学校という文字は、「木にかこまれた校舎で学び交わる」という意味が込められていると言えます。

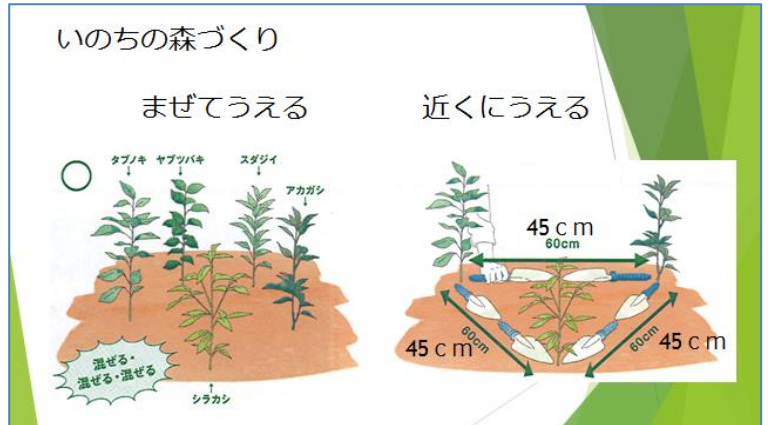


この絵は、「本物の森」のつくりを示しています。

その土地の環境に適合する高中低木、色々な種類の木が混ざりあって「本物の森」、すなわち「自然の森」は出来ています。



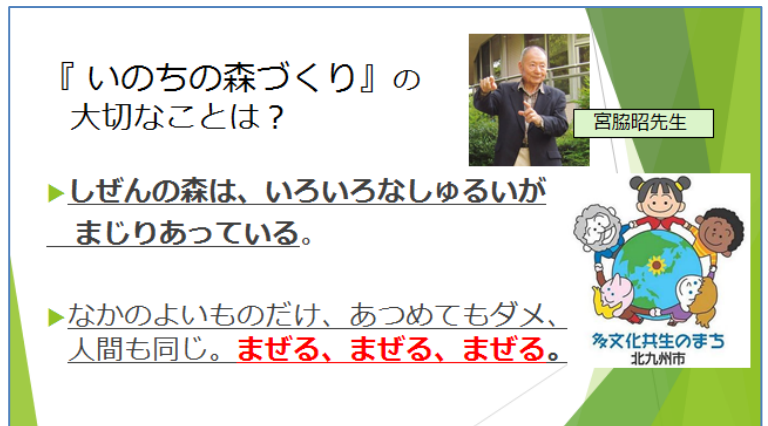
色々な種類を混ぜて1㎡あたり3本程度を密に植えます。隣どおしは違う樹種を植えます。この「混植・密植方式」(宮脇方式)は、自然の掟に従い「本物の森(自然の森)」を早期に再生する手法として、顕著な実績を挙げており高い評価を得ています。



「いのちの森づくり」の大切なこと、宮脇昭先生のメッセージを紹介します。本物の森は、本物どおしが「競争、我慢、一緒に伸びること」で、厳しい環境に耐えて生き抜くことが出来るということです。東日本大震災で甚大な被害を受けた、東北沿岸の防潮林「いのちを守る森の防潮堤」構想においても、この混植・密植方式が導入されています。



これも、宮脇先生のメッセージですが、「自然の森は、色々な種類が混ざり合っている。仲の良いものだけ集めてもダメ、人間社会も同じ。混ぜる、混ぜる、混ぜる。」・・・と云うことです。多様性(ダイバーシティ)は、自然においても人間社会においても尊重すべき重要な要素であろうと思います。



次に、日野自動車グリーンファンドのご支援を頂き、神奈川県足柄上郡の開成南小学校の1～6年生が総出で行った活動を報告させて頂きます。

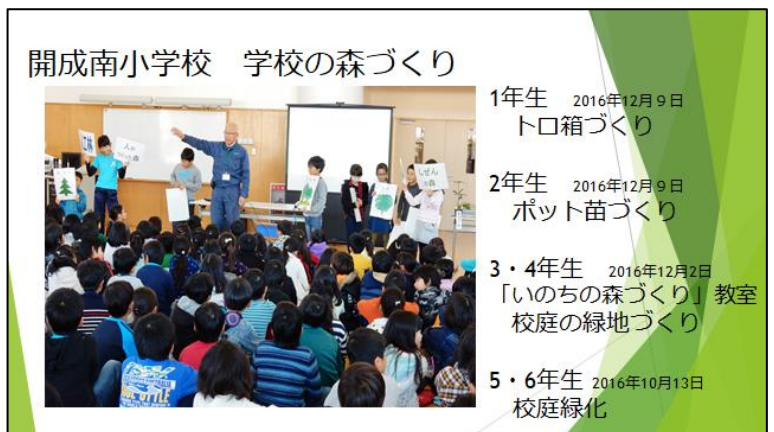
2016年12月2日、開成南小学校の校庭に3・4年生200名が18種類400本を植樹しました。

生徒さん達は真剣に話を聞き和気あいあいと楽しみながら作業を行い、みんな笑顔で植えた木と記念撮影をしました。

子供たちの表情から、この時の達成感、充実感が伝わると思います。



1年生はドングリを箱に撒く「トロ箱づくり」、2年生は幼苗をポットに移し替える「ポット苗づくり」、3・4年生は「いのちの森づくり」教室及び校庭緑地帯づくりの体験学習、5～6年生は、校庭での植樹活動など、学年に応じた取り組みを行いました。生物多様性や環境問題についても学ぶ絶好の機会となったことと思います。



2017年6月13日、園芸委員会の子供達30名と35種類496本を校庭の周囲に植樹しました。

昨年12月と合わせて2回の植樹は、日野自動車グリーンファンドの助成により実現致しました。

色々な樹種を混ぜて「自然の森」を再生する手法は、一人一人の個性を尊重し合い切磋琢磨して共に生きるという「共生」への願いを込めたものです。

開成南小学校 教頭の三宅先生からは次のお言葉を頂きました。

「学校の周りに沢山の種類の植物が植えられ、緑が目に見える環境となりました。小さな若木は、見ても可愛らしく優しい気持ちで一杯になりました。

1年生は、ドングリの芽が出るように種をまく活動を、2年生は、若木を植えて育てる活動をしました。どの活動にも「いのちの森づくり友の会」の人達が関わって下さり、植物の命を大切にする気持ちや楽しく活動することを教えて下さいました。

今後も、この活動を継続させ、学校に緑が増えることを楽しみながら、命ある全ての生きものに対して、優しい気持ちを育むよう指導していきたいと思っております。」



日野自動車グリーンファンド学校の森づくり



＜2016年度の取り組み＞

神奈川県立秦野曾屋高校
 平塚市立なでしこ小学校
 平塚市小学校教頭会
 富士見保育園(平塚市)

開成南小学校
 (神奈川県足柄上郡)

いのちの森づくり友の会

2016年度（平成28年度）は、

神奈川県立秦野曾屋高校文化祭での「いのちの森づくり」展示

平塚市立なでしこ小学校 森の講座&校庭での植樹

平塚市小学校教頭会 教頭先生によるポット苗づくり体験イベント

富士見保育園（平塚市） 園児による「ポット苗づくり」体験

そして、日野自動車様の助成により実現した開成南小学校 只今説明申し上げた全学年での素晴らしい取り組みが実現しました。

「学校の森づくり」は、緑化を通じた環境保全に加え、花や香りや緑を楽しめるように、そして、校庭の多くが避難場所に指定されていることから「防災」の観点も意識しつつ、植樹場所や植樹本数、高中低木の樹種の選定等を相談しながら進めています。

「学校の森づくり」は、生徒さん達が、実際の作業を楽しく体験しながら自然の大切さや命の尊さを学び、人間的な成長に結びつける貴重な機会となります。これからも、「教育」との連携を目指すこの活動を続けて参りたいと思います。

日野自動車グリーンファンド様のご支援に、心より感謝申し上げます。

以上